

学校法人滋慶学園 北海道ハイテクノロジー専門学校
2026年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時：2026年5月25日(月) 13:30-15:30

場所：北海道ハイテクノロジー専門学校 第1校舎2階 理事長室

参加委員は以下の通り

区分	氏名	所属	役職
卒業生代表	佐伯 聡	株式会社 フロンティアサイエンス	代表取締役社長
保護者代表	鈴木 弘美	在校生の保護者	
高等学校関係者	大場 真哉	帯広大谷高等学校	教諭
地域関係者	早坂 貴敏	近隣関係者	北海道議会議員
業界関係者	高嶋 弘継	社会医療法人社団カレスサッポロ記念病院	ERセンター
業界関係者	前田 浩希	株式会社レンタコム北海道 営業本部 ICT 事業部	部長

事務局出席者は以下の通り

氏名	所属	役職
佐藤 俊	北海道ハイテクノロジー専門学校	学校長
下山 記弘	北海道ハイテクノロジー専門学校	事務局長
早坂 正利	北海道ハイテクノロジー専門学校	教務部長
佐々木 謙一	北海道ハイテクノロジー専門学校	スクール事業・資源活用センター長
上野 正博	北海道ハイテクノロジー専門学校	産学・高専連携センター長

議事内容

1. 開会のご挨拶（学校長：佐藤 俊）

佐藤学校長より、2026年4月の学校教育法改正に伴う専門学校の地位向上について説明がありました。具体的には、学習者の呼称が正式に「学生」と定義されたこと、大学との互換性を高めるため「時間単位」から「単位制」へ移行したこと、そして「専門士」の称号が法令に明記され、高等教育機関としての位置づけが明確になったことが述べられました。

2. 事務局長ご挨拶（事務局長：下山 記弘）

下山事務局長より、自身の経歴紹介とともに、本校が提供する医療、スポーツ、ITなどの多角的な教育運営に対する抱負が述べられました。

3. 会の目的について（事務局長：下山 記弘）

「職業実践専門課程」の意義について説明がありました。企業や地域と連携した教育課程の編成を通じて、職業教育の質を組織的に確保することが目的であり、自己点検・自己評価の結果を外部委員が客観的に評価するプロセスの重要性が示されました。

4. 委員および事務局メンバーご紹介

出席した委員および事務局メンバーが紹介されました。

委員（評価者）：佐伯聡（卒業生代表）、鈴木弘美（保護者代表）、大場真哉（高等学校関係者）、早坂貴敏（地域関係者）、前田浩希（業界関係者）、高嶋弘継（業界関係者）

事務局：佐藤俊、下山記弘、早坂正利、上野正博、佐々木謙一

5. 校舎見学

約30分間にわたり、最新の教育設備や校舎内の見学が実施されました。

6. 2025年度 自己点検・自己評価報告

各担当者より、2025年度の取り組み成果が報告されました。

教育理念・育成人材像（担当：上野・早坂・佐々木）：札幌工科専門学校や民間企業3社との教育連携協定を締結し、ドローンやアナリスト教育を強化したことが報告されました。また、バイオテクノロジー学科への学科改編や、クラフトビール醸造体験を通じた社会人の学び直し（リカレント教育）の推進についても触れられました。

管理運営・人事（担当：佐々木）：目標管理システム「HRMOS」の導入による教職員の評価制度整備や、サイボウズ、Microsoft 365などの導入による業務効率化が報告されました。

教育活動・成果（担当：早坂）：柔道整復師や救急救命士の国家試験合格率、および就職率100%の継続が報告されました。

学生支援（担当：上野・早坂）：2025年度の退学率は4.4%となり、前年度より上昇した要因として、学生のメンタル面での不安（繊細さや諦めの早さ）が分析されました。対策としてスクールカウンセラーによる特別授業やWeb予約システムの活用が挙げられました。

地域貢献（担当：早坂・上野）：高齢者向けスマホ教室や、ドローンを用いた地域の倒木リスク調査、30種以上のボランティア活動実績が報告されました。

7. 質疑応答・意見交換（委員からの質問・意見）

早坂貴敏委員（地域関係者/道議）：

意見： 救急救命士の地方就職について、自治体が奨学金や補助金などのサポートを用意していても、情報がホームページの深い階層にあって学生に届いていない現状がある。

提案： 学生が地方を好まないのは「知らない」からである。在学中に2、3日地方へ飛ばし、救急の現場だけでなく街並みや特産品を見せるような「お試し移住」的な見学を消防と連携して行うべきだ。

高嶋弘継委員（業界関係者）：

意見： 地方消防は高齢化と人手不足が切実である。消防の広域化や通信の共同運用を進めないと経費も維持できない。

評価： 現在の学校の取り組み方針は現場の視点からも非常に良い方向であり、頑張っていると感じる。現代・近未来のニーズにマッチした教育施設・内容だと感じる。

前田浩希委員（業界関係者）：

質問： 自治体の補助金は新卒者に限らず、転職者や有資格者も対象になるのか。

意見： ドローン教育において本校は業界の先を行っている。次はフィジカルロボット（犬型・人型）の時代が来るため、学生の発想でテクノロジーを「線」でつなぐ取り組みを期待したい。

大場真哉委員（高等学校関係者）：

意見： 高校のマーケットも中卒者数が減っており厳しいが、最終的には「ロコミ」が重要である。卒業生の子供が入学してくるような人間関係のつながりが信頼の証である。本校（滋慶グループ）には全幅の信頼を置いている。

佐伯委員（卒業生代表）：

意見： 道内の専門学校の中では、積極的な戦略で勝ち残っていると思う。学生減は企業にとっても悩ましい。

8. 事務連絡

2028年度に計画されている開校40周年の大規模な同窓会（エスコンフィールド北海道での開催を検討）についての案内がありました。

9. 閉会のご挨拶（事務局長：下山 記弘）

下山事務局長より、委員からの意見を真摯に学校運営に役立てること、社会の変化に合わせて学生や教職員も変わり続け、必要とされる学校であり続ける決意が述べられ、評価表に評価を記入していただき閉会となりました。15:30

学校法人 滋慶学園
北海道ハイテクノロジー専門学校

学校長 佐藤

